

伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターニュース

伊豆沼・内沼に冬の使者飛来

10月9日朝、栗原市迫川（若柳）で今年初飛来のコハクチョウ2羽を確認しました。

コハクチョウの飛来は、平年より1日早く、昨年と同日の飛来です。

伊豆沼・内沼にも多くのハクチョウが飛来し始め、冬に向かうにつれ、沼がにぎやかになってきました。

(公財) 宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
〈事務局〉

〒989-5504

宮城県栗原市若柳字上畑岡敷味17-2

Tel:0228-33-2216 Fax:0228-33-2217

ホームページ: <http://izunuma.org/>

E-mail: izunuma@circus.ocn.ne.jp



沼で羽を休めているオオハクチョウ

◇活動報告

【インドネシアで伊豆沼の活動を発表してきました！】

環境省からの要請を受けインドネシアで開催された、ラムサール湿地管理者を対象としたワークショップに出席しました。国を超えて移動する渡り鳥を守るには、国際協力が不可欠です。今回、東アジア各国から、ラムサール湿地保全に取り組む機関の代表者が集まり、各国との情報交換と、湿地の保全に向けた新しいツールの講習会が行われました。私は日本からの代表として伊豆沼の状況を発表してきました。外来魚防除活動など、伊豆沼の先進的な取り組みは各国の興味を引いたようで、帰国後色々な問い合わせもありました。インドネシアのラムサール湿地も訪れ、マングローブの植林活動などを視察してきました。今回の国際交流で得たものは、今後の伊豆沼・内沼の保全活動に生かしていきたいと思えます。



各国の方々との情報交換の様子

(藤本)

第7回 伊豆沼・内沼自然体験講座「伊豆沼漁師体験」

10月19日（日）に、伊豆沼・内沼自然体験講座「伊豆沼漁師体験」を開催しました。沼の漁師が使う定置網や刺網、つかごなどを体験してもらうイベントです。

参加した子どもたちは、普段見ることができない沼の魚やエビを手で触ったりなどして、歓声をあげ楽しんでいました。伊豆沼の自然と触れあういい機会を提供できたと思えます。



大きいコイを捕まえました＼(^o^)/

伊豆沼・内沼生き物図鑑

アカウキクサ属 (Azolla) 植物



見られる時期：8月下旬～10月下旬
見られる場所：伊豆沼南東岸

※伊豆沼で見られるアカウキクサ属植物は、特定外来生物の *Azolla microphylla* Kaulf. と *A. filiculoides* Lam. (アメリカ原産) との交雑種とされます。

秋の伊豆沼・内沼の水面が、赤くなっていることがあります。この原因の一つは、アカウキクサ属 (*Azolla*) 植物 (※) の大量発生です。アメリカ原産のこの植物は、緑肥や家畜の餌などとして転作田などで栽培されています。秋になると赤く色づくため、大量に発生した場所では水面が赤く見えることがあります。伊豆沼では2010年に初めて確認され、近年沼の南東岸で増加しています。他の植物を覆ってしまったり、富栄養化の原因にもなるので、私たちは、その動向を監視しています。



大量発生し、水面を覆うアカウキクサ属植物。

「新人職員紹介コーナー」 上田 紘司 (うえだ こうじ)

4月から職員となりました上田 紘司と申します。幼少期から昆虫好きで、カブトムシの飼育やセミのぬけがら採集などを通じ、昆虫の生態(生きざま)に興味を持ちました。大学院では、ダイズの害虫とその天敵の関係について研究していました。現在は、沼周辺に生息するトンボ類の生息状況を調査しています。その結果、沼には絶滅の恐れのあるトンボをはじめ、たくさんのトンボ類が生息していることが分かってきました。栗原市サンクチュアリセンターつきだて館(昆虫館)にありますので、お会いした時は是非お声をかけて頂ければうれしいです。



◇ 渡り鳥生息調査

ガ ン 類	37,306羽
ハクチョウ類	2羽
カ モ 類	230羽
総 数	37,538羽



2014年10月9日調べ

初飛来したマガン32羽(9/13)